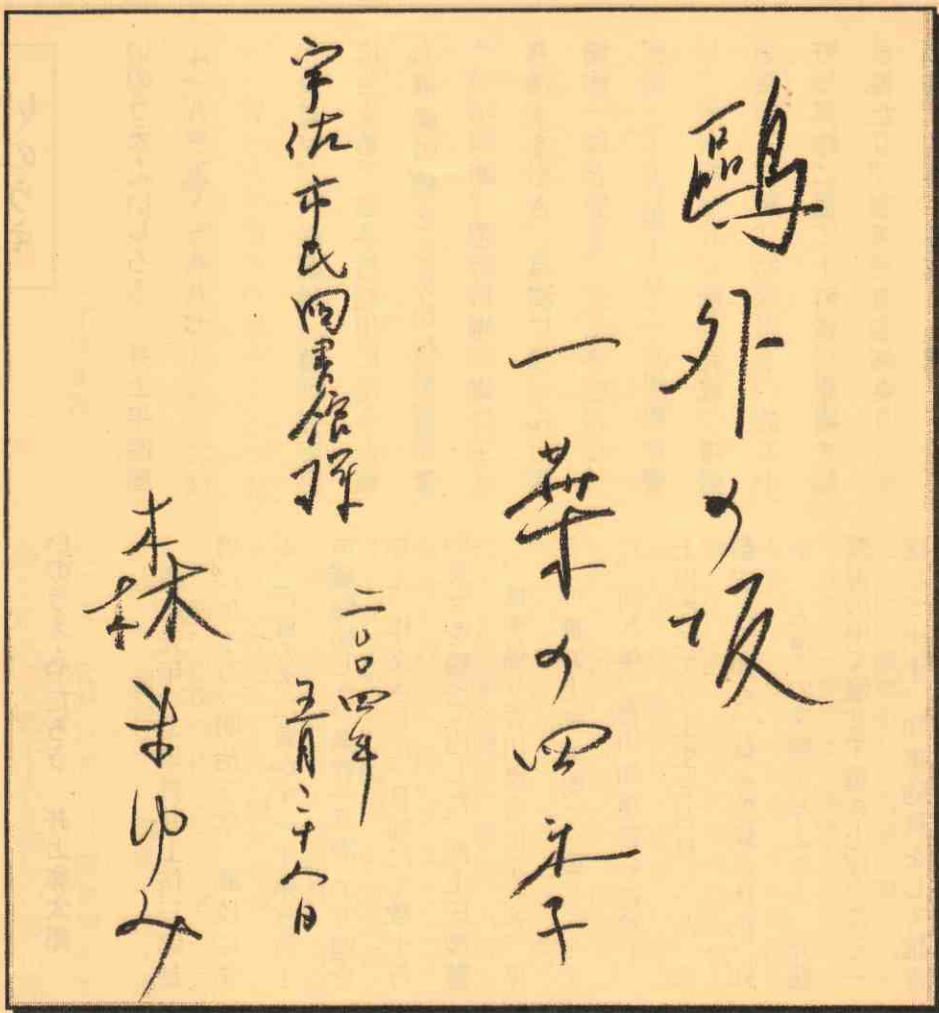


宇佐市民図書館 2004.06
 郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
<http://www.usa-public-library.jp/>

- 目次
- ◆ 今月の表紙・森まゆみさんの色紙
 - ◆ 森まゆみ『一葉の四季』「あとがき」から
 - ◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(25)
 - ◆ 新着郷土資料目録・平成十六(二〇〇四)年【5月】

4 2 1



今月の表紙 森まゆみさんの色紙「鷗外の坂／一葉の四季」。平成十六年五月二十八日、戦跡遺構の取材で宇佐へ来られた折、宇佐市民図書館で。森まゆみさんは作家・東京国際大学教授。著書に『鷗外の坂』(新潮社・1998)、『一葉の四季』(岩波新書・2001)など。平成十五年十二月から翌年一月まで、NHK・TV人間講座で「こんにちは一葉さん」を担当。

『一葉の四季』あとがき

森まゆみ

樋口一葉にめぐりあったのは
 中学一年のとき。角川文庫に『一
 葉青春日記』と『一葉恋愛日記』
 が入っていて夢中になって読んだ。

この紫式部以来の天才といわ
 れる女性が、わが住む町のすぐ
 近く、本郷に住んでいたのは大
 きなめぐりあわせであった。私
 は半井桃水の住んだ西片町の誠
 之小学校に通い、丸山福山町に
 友だちがいて、菊坂でも遊んで
 いた。百年前に一葉が語る土地
 や起伏や橋を私はまざまざと感
 じとることができた。小説の方
 はかなりむずかしかったが、「に
 ごりえ」「たけくらべ」「十三夜」
 「大つごもり」と読みついた。

(岩波新書・2001)

龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編 (25)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。
収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に記載しました。

いのうえ

いのうえ・へいしろう 井上平四郎
(一八三五～一八九七)

公益家。天保四年、草地村志手に生まる。志手村桂川に沿うと雖も灌漑の便乏しく比年旱害を受く。平四郎、苦心百端、遂に玉ノ井涌水を引き、灌漑に便せんと馬場弥一郎と計り、大工事を起し、明治二十六年より二ヶ年餘を費し、十八年七月、漸く完成。暗渠全長千三百尺、給水志手に於て十町歩呉崎に於て十町歩、患害を除き得たり。志手村有志相寄り、明治四十三年一基の記念碑を建つ。平四郎氏は、明治三十年、十月、六十三歳を以て歿した。
(大典・郡誌)

いのうえ・やたろう 井上弥太郎

慶応元年、上田村井上岱三郎長男に生まる。明治三年、郷校に学ぶ。神童の名に負かず一年県官河上市蔵臨検した。県官「立志」の文題を与え、作文させた。目前にて数十行の長文を綴って出した。河上氏喫驚し、携え帰り香川県令に示した。県令「神童井上弥太郎」と言じて与えた。同九年、香川知事自ら巡視し、上田校にて井上生を召見し、た。挙動成人の如く、益ふ所頗る壮快。知事、「人道」の文題を与えると、先輩環視の中で憶せず書き上げ、自ら一読して出す。知事随員をして読ませ、余白に「後世可畏」と讚したという。同十一年、十五歳で母校の助教となり、家道を助けたが、推薦生

として大分師範に入学した。読むに書あり聴くに師あり、未だ曾て主席を人に譲らなかつた。然るに師範予備門廃止となり、中津市学校に入り、英語研究中、赤痢に罹り、同十四年八月、十七歳を以て歿した。県下の名士発起人となり、神童井上弥太郎の墓が建った。(宇佐史論)

いまおか・こんいち 今岡良一

諱友輔。通称寿之助又良一。号不頼軒。森藩士田坂藩の六男。今井主鈴(家老)の嗣子となる。秀才の称あり、園田忠城に学び、藩学教授となり、原口兼濟らと森藩文武振興を謀った。明治四年上京、弾正台に出仕し、司法省に転じ、東京裁判検事より、東京地方裁判検事正等に展任し、同二十五年退官し、摂津汽船会社々長となり、頗る会聞あり。

再び官途に就き、行政裁判所評定官より累進し、台南県知事に歴任し、官従四位勲四等に至る。同三十四年退官、実業界に入り活躍し、四十一年、日本商船株式会社々長となる。隠退後は、鎌倉に閑居し詩賦揮毫に余生を送り、大正六年東京にて歿す。

(偉人伝・森藩史)

いまがわ・さだよ(りょうしゅん) 今川貞世(了俊)

將軍義満建徳二年、貞世を鎮西探題として下す。在任約二十年、初め菊地武光を討たんとし、寡兵を以て進み得ず、大内義弘に命じて援けしめたが、菊地武政と水島に、菊地武朝と託間河に戦つて共に不利であった(大典)。

貞世下るや、豊前より上陸し、宇都宮経秀をして豊前を平定さし

た。其子の今川義範は豊後より上陸したが、大友氏継は弟親世と不和で、遂に官軍に降り、義範に對抗していた。弟今川仲秋は肥前より上陸して少貳氏と連絡していた。やがて、天禄年中、従西将懐親王は成良親王に譲り、弘和三年、雲雀床にて斃死された。其間貞世は官方に対処して功は無く却つて島津大友少貳の三大族の駕御に苦心した。殊に豊後大友に対しては、大いに苦しめられた。大友親世は大内義弘と連絡した。貞世は召還され新探題の着くまで親世之を代行した。応永三年に至り、渋川満頼が探題として来り、親世は九州奉行職となった。郷土には了俊の感謝状や安堵状等頗る多く遺っている。

(宇佐史談)

いりた・ちかさね 入田親真

入田村津賀牟礼城主入田親真は義鑑に仕え、義鎮の傳となつていた。義鎮頗る放胆、親真直諫しばしば。然るに義鑑は妾出八郎を愛す。八郎の母は親真をして義鎮を廃し八郎を立てんと企てた。義鑑も近臣四人斎藤、小佐井、津久見、田口を招き諮った。四氏、同音に廃嫡は乱世の本と述べた。義鑑怒つて斎藤、小佐井を誅せしめた。八郎の母、津久見、田口の首は如何という。二氏、時を移さず義鑑を簾中に殺し、八郎及其母も殺した。時に天文十九年二月十日であった。義鎮、別府温法より帰り、家を従ぎ、入田親真を津賀牟礼に攻めさせた。親真強豪といえども敵は玖珠日田の兵三千人、不利に陥った。親真の子、義真一まず遁れて再挙を計れという。親真聞かず敵中に入つて数十人を斬り、念仏高らかに唱えて自刃す。

(直入郡史)

いりた・ひうん 入田披雲

(一八二六～一九〇七)

漢学者。文政九年、直入郡岡本村字挾山の儒家に生まる。幼名贊平のち龍吾。披雲と号した。田能村竹田、帆足万里に学び、由学館句読師となり、習学師を兼ね、維前後、殿町に私塾を開き、伝習舎と号した。後年、長崎師範学校、竹田中学校に教鞭を執り、明治四年四月、八十二歳で歿した。
(大典)

バックナンバーは、郷土スペース(雑誌架)にファイルしています。ご希望のかたには、中央カウンター(そうだん)でさしあげます。

新着郷土資料目録 平成16(2004)年【5月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

- 三洲長ひかる著作選集／中島三夫／2003.12／A289チ／(寄贈)
 蛍を見に行く／宮嶋康彦／2004／A290ミ／(購入)
 宇佐郡／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 宇佐市／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 大分市西部／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 大分市東部／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 下毛郡／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 中津市／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 西国東郡香々地町 2002／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 西国東郡真玉町 2002／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 速見郡山香町／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 豊後高田市・西国東郡大田村／北九州：ゼンリン／2003／A291.9ウ／(購入)
 一緒にまちづくりをする人たちへ／高松右門／ハヌマン／2004.3／A318タ／(寄贈)
 海軍料理おもしろ事典／高森直史／光人社／2004／A390タ／(購入)

【マイクロ資料】

- 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和26年1月～4月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和26年5月～8月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和26年9月～12月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和27年1月～4月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和27年5月～8月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和27年9月～12月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和29年1月～3月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和29年4月～6月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和29年7月～9月／大分合同新聞社／(購入)
 大分合同新聞マイクロフィルム 昭和29年10月～12月／大分合同新聞社／(購入)